



45 東寺末葉集
第十卷 縁起・血脈篇1
46 三部経并奥疏縁起
47 大日経疏伝授鈔/真言宗
三部経并大日経疏縁起/
大日経奥疏由来/十卷義
釈裏書等

48 大日経疏口伝私記
49 大疏伝授私記 慧摩録 全
50 真言蒙求 中 血付
51 東寺真言宗血脈
52 疏伝授血脈原寸大復刻図符
第十一卷 縁起・血脈篇2

53 血脈小野井広沢
54 相承八祖
55 玉印鈔 五卷
56 諸軌伝授法制
57 南天铁塔出興由米之事
58 南門堂影像方次第
59 高野山学伯行人非事史三
派来由

第十二卷 悉曇・曼荼羅篇
60 悉曇伝承日記 南山之様
61 悉曇伝承日記口説 全
62 三五摩多弁/八転声集釈
/悉曇具書目録/梵学津
梁七詮総目/悉曇十二例
略記

63 理趣経法曼荼羅誦説不同
記
64 理趣経十七章曼荼羅図
65 千手四十手深要決 完
66 千手千眼観自在菩薩広大
田満無碍大悲心大陀羅尼
啓語

推薦のことば

東大名誉教授・東方学院々長
中村 元



日本の内地では見られぬような見事な日本の美術品がアメリカの博物館に数え切れぬほど多く所蔵され、またわが国でも珍しい蔵書の山がアメリカの大学図書館の地下室に保存されているのを見て、わたくしは複雑な気持ちになった。まさに国の宝とでもいうべきものが流出してしまったからである。あちらでどれだけの人が理解し得るのであろうか？ しかし現地の人々の言うことも、もつともであった。——「こういう大切なものを、日本の美術館や図書館においておいても、保存ができないではないか。虫喰いにまかせざるがままではないか」と。

ができないので放置され、殊に古典の類は、もはや大学に置く場所もないので、数十マイル離れたところに所蔵庫を建設しつつある。したがって学者がそのうちのどれか一つの書を読もうとしても、数日を要する不便さである。この事情は、欧米の図書館を通じて大同小異である。

ところが今、梅尾祥雲師の貴重な蔵書に関する限り、それは学者の容易に披見し得るものになった。ここに完全な復刻本が刊行されることになったからである。ここに復刻される六十六篇は、特に稀覯書を選んであるようであり、それだけでも貴重であるが、さらに梅尾師が朱筆でみづから記入された書き入れは重要である。師の研学のための血涙のあとを見ることが出来る。

先年台湾で胡適博士の朱筆書き入れ本が復刻されたのを見て、わたくしは、日本でもこういうことがなされればよいが、と思っていたが、今わが国でもそれが可能となったことを喜ぶものである。

別巻目次

発刊の辞 堤 たち

監修者のことば 金岡秀友
松長有慶
桐山靖雄

ひなび 金 益杉

文化交流のかけはし
DIONが所蔵するまでのいきさつ——足利演正

凡例

全十二巻収録文献目次

目次

第一章 収録文献概説

凡例

第一巻教相篇1 概説
第二巻教相篇2 概説
第三巻教相篇3 概説
第四巻教相篇4 概説
第五巻教相篇5 概説
第六巻教相篇6 概説
第七巻事相篇1 概説
第八巻事相篇2 概説
第九巻事相篇3 概説
第十巻縁起・血脈篇1 概説
第十一巻縁起・血脈篇2 概説
第十二巻悉曇・曼荼羅篇 概説

第二章 回想

梅尾博士の若かりし頃の思い出——森 論圓
密教学の開拓者として——大山公淳
梅尾先生と高野山大学——酒井真典
梅尾祥雲博士の業績——松長有慶
父、梅尾祥雲——梅尾祥瑞
密教学における新しい発想について——畠田禅峰

第三章 学問・業績

『理趣経の研究』にみる仏教学・密教学——金岡秀友
密教学の基調——梅尾博士の研究
及び蔵書と関連して——清水 乞
『曼荼羅の研究』の現代的価値——頼富本宏
【教相】
『即身義問題』について——東 智学
『千手四十手深要決』——密教図像論——清水 乞
序説

【悉曇・曼荼羅】
寂寂撰『八転声集釈』「三五摩多弁」——大鹿実秋
中国語学と仏僧——金岡照光
第四章 遺稿

第五章 資料

梅尾祥雲博士略年譜——梅尾祥瑞
梅尾祥雲博士論文目録——武内孝善
梅尾コレクション互照表
カリフォルニア大学所蔵・梅尾コレクション目録——立花孝全
あとがき——桐山靖雄

金岡秀友



松長有慶



桐山靖雄



明治以後の仏教学が、百花妍を競い、巨匠が龍象その才を示す中であつて、密教学・真言学は、開花のもつとも後れた花ではあつた。しかし、南山千余年の伝統は、新しい学風の波に洗われ、流されることなく、新・旧の因縁熟して密教研究の一大金字塔を建てるに至つたのである。

梅尾祥雲博士の全業績こそそれである。梅尾博士の著述として、今日、世に伝わるものは、博士没後、難解でないとは決していえないその全集が、版を新たにすや忽ち売り切れてしまうことを見て、いかに長い価値を有しているかを察することができよう。

しかし、博士の全著述を支える膨大で該博な知識が、いかなる資料と素養の上に乗つたものであるかは、博士没き今日、明らかにすることは容易でない。

もちろん、博士の著述の随処に、刻明に正確に記されている註記は、博士著作の基盤と背景を示している。しかし、思うに、これらは世にいう「氷山の一角」であろう。すべてのよき学者、よき著述と同じく、記述された知識の何倍かの素養が見えぬ所に眠っている。殊に梅尾博士ごとき大家に至つては、その感強い。何人といえども、この碩学の研学の跡を知らまほしく思うのは当然以上のことであろう。

個人に対する関心と興味からのみでは決してない。博士の業績と学風は、先言せるごとく、日本の、否、世界の密教学の指標だからである。

著作中の引用は、博士学殖の一端に過ぎず、業績を自己の行履として知悉する博士すでに没き今日、残る可能な方法は、博士の書架を縦覧することだけである。

最後の、もつとも希ましい、しかし、もつとも困難と思はれる方法が、いま開かれた。滞米久しく、西藏学・密教学の研究に励んでおられた立花孝全氏は、梅尾博士の蔵書が米国カリフォルニア大学の書架に保存されていることを発見された。保存は完全であり、しかも、それは博士蔵書の主なるものを略網羅している、という。この報道が、密教学・仏教学の研究に携わるものを欣ばせない理由はない。

下名らの間で、博士蔵書のうち、明治以降の刊行本以外のものを主として、復刻しようという議がおきたことは、上記の考慮からして当然のことであつた。

かくて右立花孝全氏と、東洋大学の清水乞氏らが米国との連絡・業務に当り、順次送付し来れるコピーを整理し、校訂する業務には東洋大学付置東洋学研究所の中山清田、榎本榮一の両氏が鋭意これに当られた。事務の管掌は平河出版社が全力これに當つた。

いま、ここにその全十二巻を世に出すことを得て、下名らは、冒頭の学的要求を江湖に果した満足はいささか感ずると共に、進んでは、密教に対する一般的要求にも、間接的ではあるが基本的な示唆を与えうるのではないかと希うものである。

昭和五十六年八月二日

別巻

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

十二

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

十一

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

十

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

九

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

八

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

七

カリフォルニア大学所蔵

梅尾コレクション
顕密典籍文書集成

平河出版社

- 第一巻 教相篇1
- 1 真言宗僧俗階級
- 2 密蔵要義 全
- 3 宗義諸等題難答構之事 上下
- 4 宗義玄談秘要
- 5 宗釈秘事巻集
- 6 覺阿問答鈔 上中下

- 第二巻 教相篇2
- 7 骨髄鈔
- 8 顕密三身圖記／密宗仏身建立
- 9 知自心章別記
- 10 警覺心統生義／紅鐘一唾 篇附
- 11 論匠三番 五仏心王答 度生願滿難
- 12 法教雜録
- 13 宗義折紙相伝巻々

- 第三巻 教相篇3
- 14 安祥寺流伝授隨筆 上中下
- 15 密林余材
- 第四巻 教相篇4
- 16 新古十ヶ証文
- 17 大日経疏爛脱醍醐寺 橋之本
- 18 宗義謂立会通
- 19 理趣経廃忘記 一二三

- 第五巻 教相篇5
- 20 即身義問題 全
- 21 即身義問書附録 首竹
- 22 秘蔵宝鑰問談鈔 上下
- 23 秘宗要略
- 24 秘密曼荼羅教開演玄叙／教相大義

- 第六巻 教相篇6
- 25 槇尾問答鈔 百箇条 天地
- 26 秘密万茶経摩怛利迦 全
- 27 台宗摩怛利迦 上下
- 28 台宗見聞要記
- 29 玄談集 教誠律儀／西谷名目／作詞門／原人論／三教指帰

- 第七巻 事相篇1
- 30 曼荼羅問答／更問抄／造壇儀 三珍合玩
- 31 伝法灌頂胎蔵界作法 後夜
- 32 金剛界胎蔵界梵漢和鏡 金剛界梵漢和鏡 四巻
- 第八巻 事相篇2
- 32 金剛界胎蔵界梵漢和鏡 胎蔵界梵漢和鏡 五巻

- 第九巻 事相篇3
- 33 度人要軌
- 34 大塚問決
- 35 僧服記
- 36 見聞披推録
- 37 宗骨鈔
- 38 醍醐鈔
- 39 大施餓鬼分解
- 40 盆供施餓鬼問弁
- 41 事教傳話
- 42 先徳略名等
- 43 高祖先徳榮文記
- 44 顕密護法編 上
- 45 東寺末葉掟

第十巻 縁起・血脈篇1